

時代の変化に応じて最適な治療を提供

# 大腸肛門科専門病院が挑む 新たな取り組み



横浜市にある松島病院は、国内でも有数の大腸肛門疾患の専門病院として知られる。肛門科の代表的な疾病と言えば、いわゆる「痔」が挙げられるが、松島病院では、痔をはじめとする大腸肛門科疾患全般において、診断から治療、手術まで質の高い専門医療を提供している。

これまで「デリケートな問題」として治療に手を付けるのが遅れがちだった肛門科だが、高齢化や大腸がんリスクの高まりなど大腸肛門科を取り巻く環境は大きく変わりつつある。同院では、こうした変化にグループを挙げて対応している。松島誠理事長をはじめ、各医師に松島病院グループの取り組みについて聞いた。

## 恥ずかしさが先に立つ 大腸肛門科疾患のリスク

「大腸肛門科領域の疾患については、時代とともに大きく変化を遂げています」

松島病院は大正13年の開業以来、大腸肛門科疾患の治療に一貫して取り組んできた。3代目に当たる松島誠理事長が感じているのが、高齢化や生活様式の多様化、時代による大腸肛門科の果たすべき役割の変化だ。

「痔核・裂肛・痔瘻の治療ひとつとっても、根治性と機能温存を両立する治療が確立されています。命にかかわる病気ではありませんが、高齢化が進むわが国では、患者さん自体が増えているという事情もあります。若い人でも30〜40年後の肛門機能のことを考え、必要な治療を適切に行うことが大切です」

高齢化が進み、健康寿命が言われるようになった昨今、生活の質に直結する「快適な排便」にかかわる痔の治療の存在感は増している。



松島 誠(まつしま まこと) 総院長・理事長

1978年、北里大学医学部卒業後、80年、横浜市立大学医学部第2外科医局入局。同第1病理学教室助手を経て、82年、横浜掖済会病院外科医長。86年、医療法人恵仁会松島病院副院長に就任。90年には博士号を取得し、2003年より院長、2015年より現職。

同院では、食事指導による予防や排便指導、仙骨神経刺激療法(SNM)などの先進技術にも積極的に取り組み、若年層に対しても低侵襲で再発率の低い治療を心掛けている。

痔は日本人の3人に1人が患うといわれる一般的な疾患だが、お尻のことだけに恥ずかしさが先に立ち、ついつい受診せずに済ませてしまう場合も多い。松島理事長は、これが大腸肛門科に共通する問題点だと指摘する。

「ひどくならないと病院に行かないというのは、大腸肛門科の抱える共通の問題点です。そういう意味では、大腸肛門科疾患のさまざまなリスクについて、病院側でも啓発していく必要があると思っています」

## 老化や体質だけじゃない 排便機能障害とは？

同院で近年力を入れているのが、排便機能障害の治療だ。2015年に新設されたのが排便機能障害外来を行う排便機能センターだ。同セ



ンター責任者であり、松島病院の院長を務める黒水丈次医師は、耳馴染みのない排便機能障害についてこう説明する。

「便秘や軟便、便漏れなど、要するにお通じが快適ではない。排便のメカニズムが乱れた状態を排便機能障害と言います」

同センターでは、大腸、肛門の機能障害による排便機能障害を専門的に診断、治療している。正しい排便とは、便意を感じたときに無理なく便が出せる状態のことを指し、現代社会ではさまざまな原因から排便機能障害に陥っている人が多くいるという。

「トイレで『踏ん張る』というイメージがあると思いますが、肛門というのは体に力を入れれば入れるほどしまっていくんです。自然な排便のためには踏ん張らないことが重要なんです」

同センターでは、排便の妨げとなる原因を探る各種の検査のほか、薬物療法、肛門括約筋の動きをモニタリングしながら、収縮・弛緩の

コントロールをするバイオフィードバック療法、仙骨神経刺激療法（SNM）などを行っている。

「年齢にかかわらず、例えば生活のストレスなどで排便機能障害になることも少なくありません。便秘については、体質として諦めている人も多いと思いますが、原因さえわかれば治療は可能です。現在はさまざまな治療法、新薬の登場などで治療効果が高まっています。便漏れ、便失禁なども高齢だからと放置するのではなく、一度診察に来ていただきたいと思っています」

快便は健康の証という考えはあっても便秘や頻便が治療可能な「病気」という概念は定着していません。全国でも珍しい排便機能障害外来専門のセンターは、これまで我慢していた排便に関する症状や不安、疑問を解消してくれる専門機関だ。

**増加する大腸がん  
内視鏡検査で早期発見**

「先代の時代、40年以上前のことになりましたが、当院で痔の手術を受



黒水 丈次 (くろみず じょうじ)  
常任理事・松島病院 院長

1977年慶応義塾大学医学部卒業。藤田保健衛生大学准教授、旧福岡高野病院(胃腸科肛門科専門)院長などを経て、2015年4月に同院へ入職。2016年7月同院の院長に就任。



けた患者さんの奥様にお会いしたとき『お加減いかがですか?』と訊ねたら『お尻は良くなって喜んでいたのですが、3年前にがんで亡くなりました』という答えが返ってきたんです」

亡くなった患者さんが患っていたのは大腸がん。良性疾患である痔の治療を行いながら、肛門と密接な関係にある大腸のがんを見つけれなかった悔いが残った。

「当院では、肛門科だけでなく、大腸がんについても40年以上前から取り組みはじめています。特に直腸がんは、肛門科の診察時に発見できる可能性が高いのが特徴です。医師に大腸がんの知見があれば早期発見が可能なんです」

1980年代、同院地域の直腸がんの手術症例数が多いことが話題になった。これは、同院で直腸がんが発見される割合が非常に多かったことに由来していた。近年の急激な増加で大きな注目を集める大腸がんだが、同院では1985年に大腸内視鏡検査を開始、1987年に横浜市西区に大腸内視鏡検査専門の松島クリニックを設立、現在は年間約20,000件の大腸検査を行っている。

2018年には神奈川県外の患者のために松島クリニック汐留を開院した。松島クリニック汐留の高橋敬二



高橋 敬二 (たかはし けいじ)  
松島クリニック汐留 院長

東邦大学卒業。東邦大学大森病院消化器内科に在籍。2007年より松島クリニックに勤務し、2018年2月より松島クリニック汐留院長に就任。

院長は、開院の理由についてこう説明する。

「松島病院は横浜地域の病院ですがその専門性から非常に診療圏が広い病院です。都内や関東他県の患者さんのためにも、大腸内視鏡の専門的な検査、治療を提供できればと思っています」

31年前から大腸がんの増加を前提に、さまざまな検査を行ってきた同クリニックでは、鎮静剤を用いた低侵襲検査をいち早く取り入れ、その専門性を高めてきた。現在では痛みのない検査は標準的だが、同クリニックには一日の長がある。

「痛みの少ない検査に加え、画像診断の技術進化や、AIによる所見サポートなど技術革新が進んでいます。早期発見さえできれば治る確率の高い疾患なので、まずは検査をするという習慣が定着することが一番だと思います」

大腸がん患者の増加とともにその死因リスクが高まっているのは、「自覚症状がない」点が大きい。40代、50代では、症状がなくても大腸内視鏡検査を標準で受けておくのが安心だ。

**心理的障壁を取り除く  
女性専門外来の役割**

もう一つ同院が力を入れている分野がある。痔やお尻に関する疾患であることがコンプレックスや受診の障壁になることはこれまでも紹介したが、特に女性はこのハードルが高い。同院では女性専門外来を設け、ワンフロアを男子禁制として、女性のための診断を行っている。「以前あるテレビ番組で『痔は男性



松村 奈緒美 (まつむら なおみ)  
女性専門外来部長 医師

1992年富山医科薬科大学医学部卒業。同大学第二外科、横浜市立大学医学部第二外科、96年松島病院常勤医を経て、08年より松島ランドマーククリニック院長、18年より現職。

が多いか女性が多いか」という問題が出ました。その番組では男性が多いという答えでしたが、松島グループでの男女比は男性1に対して、女性は1.2と女性の方が少しだけ多かったです」

女性外来を担当する松村奈緒美医師は、女性が受診しづらい環境がテレビ番組の答えにつながっているのではないかと語る。「妊娠、出産を経験し、平均寿命が高い女性が肛門科疾患を罹患する確率が低いというのは考えづらいですよね。ということ、症状があっても我慢していたり、病院に行くという選択をしない人がいる可能性はある」

こうした現象は、治療すれば良くなるのに治療を受けない人を作ることにつながる。同院では、1993年にランドマークタワー内に女性専用のクリニックを開設するなど女性が診察を受けやすい環境作りに注力してきた。2018年からは松島病院内に女性専門外来を新設。女性専門の独立クリニッ

クではなく、最先端治療が行える大腸肛門科専門病院の治療をシームレスにかつプライバシーを保ったまま受けられる仕組みを構築した。「フロアはスタッフも含めてすべて女性だけ、松島病院と同等の診断、治療、手術までが受けられるようになりました」

女性専門クリニックは数多くあるが、規模や受けられる治療に限りがあるのは本末転倒という見方もできる。心理的障壁を取り除きつつ、最先端の専門治療が受けられるメリットは大きい。

さまざまな取り組みを行う松島病院グループは、大腸肛門科の専門病院として国内でも独自の存在感を放つ。さまざまな施策は、肛門科からスタートし、90年にも及ぶ歴史を持つ松島病院が常に時代のニーズに合わせて変化してきたことを物語る。

「肛門科という専門科は世界的に見ても珍しいんですよ。欧米にはない文化なんです。日本人はお尻や

排便に対して非常にデリケートな感覚を持っています。痔や排便機能障害、増え続ける大腸がん、女性への対応などさまざまなニーズに対応することで、大腸肛門科の専門病院としての責任を将来に渡って果たしていきたいと思っています」

大腸肛門科全般に頼れる松島グループは松島理事長の言葉通り、これからも時代の変化に合わせて進化し、発展し続ける。

**医療法人恵仁会 松島病院 大腸肛門病センター**  
〒220-0041 神奈川県横浜市西区戸部本町19-11  
TEL045-321-7311  
診療受付時間 月～土 8:30～11:30 / 13:00～15:00  
休診日 日曜・祝祭日・年末年始  
http://www.matsushima-hp.or.jp/

**松島クリニック**  
〒220-0045 神奈川県横浜市西区伊勢町3-138  
TEL045-241-7311 http://www.matsushima-hp.or.jp/clinic/

**松島クリニック汐留**  
〒105-0022 東京都港区海岸1-1-1 アクティ汐留2階  
TEL03-3437-7311 http://www.matsushima-hp.or.jp/shiodome/

